

エル・コレヒオ・デ・メヒコ (El Colegio de México)

ほし の たえ こ
星 野 妙 子

はじめに

- I 組織のあらまし
- II 研究者全国システム (SNI) について
- III 研究教育活動
- IV 近年の課題

はじめに

エル・コレヒオ・デ・メヒコ（以下コレヒオ）は1938年に設立されたラ・カサ・デ・エスパーニャ（La Casa de España）を前身とする。この組織は、内戦に破れメキシコに亡命したスペイン共和国派の知識人に活動の場を提供するために、メキシコの知識人が中心となり、政府の支援を受けて設立されたものであった。この組織を母体に1940年に設立されたのがコレヒオである。1941年に最初の研究センターである歴史学研究センター（Centro de Estudios Históricos：CEH）が設立された。以降、研究センターの数は増え続け、さらに1961年には活動内容に大学教育が加わった。もとはメキシコ市街コロニア・ローマのグアナファート通りにあったが、1976年に現在の所在地メキシコ市南部のペドレガルに移転した。その時に巨大な要塞を思わせる現在の斬新な校舎が建てられた。このようにして発展を遂げ、今ではコレヒオは、メキシコの社会科学・人文科学分野で最も権威ある研究・教育機関として揺るぎない地位を確立している。以下では主に組織、研究教育活動、直面す

る課題に焦点を当てて、コレヒオの近況を紹介したい。

I 組織のあらまし

コレヒオは7つの研究センターと図書館、出版、コンピューター・システム管理などの支援部門から構成されている。7つの研究センターとは、上述の歴史学研究センターに加えて、言語学・文学研究センター（Centro de Estudios Lingüísticos y Literario：CELL）、国際問題研究センター（Centro de Estudios Internacionales：CEI）、アジア・アフリカ研究センター（Centro de Estudios de Asia y Africa：CEAA）、経済研究センター（Centro de Estudios Económicos：CEE）、人口・都市・環境問題研究センター（Centro de Estudios Demográficos, Urbanos y Ambientales：



エル・コレヒオ・デ・メヒコの正面入口
（エル・コレヒオ・デ・メヒコ ウェブサイトより）

CEDUA), 社会学研究センター (Centro de Estudios Sociológicos: CES) である。各センターは20人前後の常勤の教授(正式名称は教授兼研究員, profesor-investigador)を擁し, これらの教授がコレヒオの研究教育活動を中心的に担っている。常勤の教授の総数は2005年現在169人(内訳は無期限契約〔de planta〕が149人, 期限付き契約〔de contrato〕が20人)であるが, このほかに学長をはじめとする本部スタッフ, 図書館, 出版, コンピューター・システム管理などの支援部門のスタッフ, プロジェクト付きの研究員, 研究奨学生, 秘書, 事務職員などがいて, それらすべてを合わせると総勢689人にも上る大所帯となる。

コレヒオは事業資金のほとんどを政府に依存する公的研究教育機関である。2005年度において収入4億2550万ペソ(2007年5月の為替レートは1ドル11ペソ)の82パーセントを連邦政府の補助金が占めた。残りの部分について述べれば, 国内・国外からの寄付金が10パーセント, 州政府補助金3パーセント, 出版物販売収入1パーセント, その他4パーセントとなる。

コレヒオは政府の出資で設立され, 事業資金を政府補助金に依存するために, 財政面で政府の監督を受ける。しかし研究教育事業の運営については自治が保証されている。そのことは組織規定に明記されているのみならず, 組織の統治構造にも表れている。

コレヒオの統治は, 出資者総会 (Asamblea de Socios), 統治評議会 (Junta de Gobierno), 学術審議会 (Consejo Académico), 教授会 (Junta de Profesores) の四重構造になっている。財政に関する最高議決機関が出資者総会である。連邦政府を代表する4つの公的機関, すなわち, 公

教育省, メキシコ中央銀行, メキシコ国立自治大学, 政府出資の出版社FCE (Fondo de Cultura Económica) の代表から構成され, 主な役割は, 年1回開催される定期総会における前年度活動報告と次年度予算の承認と, 統治評議会の7人の評議員の任命である。出資者総会の委任を受けて, 研究教育事業の運営全般に責任を持つのが統治評議会である。評議員はメキシコの社会科学・人文科学分野の学界の重鎮から構成される。出資者総会は評議員を任命はするが, その選考には関与しない。評議員7人のうち5人の推薦枠を統治評議会自身が, また統治評議会の下位に位置する学術審議会が2人の推薦枠を持つ。統治評議会の最も重要な役割は, 学長とセンター長の選考, 決定, 任命である(後述)。学術審議会は学長, 各センターの代表3人(うち1人はセンター長), 図書館, 出版, コンピューター・システム管理などの支援部門の長からなり, 研究教育活動の立案, 実施を協議する。さらにこの下に, センターごとの事業運営を協議する教授会が置かれている。

コレヒオを代表し, 研究教育事業の実施の責任を負うのが学長 (presidente) である。2005



巨大な要塞を思わせるコレヒオの建物
(エル・コレヒオ・デ・メヒコ ウェブサイトより)

年9月に学長が交代し、歴史学者のハビエル・ガルシアディエゴ（Javier Garcíadiego）が新学長に就任した。任期は5年、再任は1回のみ認められている。学長は、統治評議会による学内からの推薦者の募集、推薦候補者名簿の公表、推薦候補者に関する学内の意見聴取、評議員による面接・審査、最終候補者の決定という過程を経て選出され、統治評議会により任命される。各センターの長（director）も同様の手続きを経て選出、任命されるが、意見聴取の対象が当該センターに限定されるのが学長とは異なる点である。

II 研究者全国システム（SNI）について

コレヒオの研究教育活動を支える各センターの常勤の教授陣は、研究教育業績において高い評価を得ている。そのことを示すひとつの指標として、研究者全国システム（Sistema Nacional de Investigadores：SNI）認定研究者の数を挙げることができる。

研究者全国システムとは、科学技術振興を担う政府の独立行政機関である科学技術国家審議会（Consejo Nacional de Ciencia y Tecnología：CONACYT）により1984年に導入された、研究者に対する補助金支給制度である。規定の条件を満たし審査に合格した研究者には、SNI認定研究者として補助金が支給される。認定研究者は業績により、SNI候補、SNIレベル1、SNIレベル2、SNIレベル3、SNI終身の5等級にランク付けされ、等級に応じて補助金の額が決められている。その額は、SNI候補が月額でメキシコ市の最低賃金の3倍、SNIレベル1は6倍、SNIレベル2は8倍、SNIレベル3は14倍、SNI

終身は14倍と規定されている。参考のために2007年1月改訂のメキシコ市の最低賃金を挙げると、日額50.57ペソ（為替レートは前述）である。補助金の他に通常の給与が支給されるわけであるから、認定研究者になればメキシコの所得水準からすれば極めて高額の収入を得ることができる。経済的恩恵のみならず、SNI認定研究者であるか否かは、さまざまな研究助成金の申請や大学研究機関への就職の審査の際の重要な判断材料にもなる。つまりメキシコではSNIが研究者の品質保証認証となっており、研究を仕事としようとするならば、SNI認定者になることが不可欠の要件となっているのである。

補助金は終身の場合を除き、等級ごとに支給期間と更新可能回数が定められている。SNI候補の支給期間は3年限りで、更新は不可である。SNIレベル1の場合は期間3年で4回まで更新可能、SNIレベル2は期間4年で5回まで更新可能である。SNIレベル3の場合は3回まで更新可能であるが、期間は、最初の2回が5年で3回目は10年となっている。つまり理論上はSNIレベル3まで規定一杯更新して55年間、SNI終身になれば生涯、補助金支給を受け続けることが可能である。ただし更新ごとに審査が行われ、等級が上がるごとに条件が厳しくなるため、それは容易なことではない。更新時の業績評価の検討対象には、著作点数、教育実績、学界発表、国際会議出席などさまざまな項目が含まれる。ちなみに、更新時期に近くなると、筆者のもとにも過去に会議などで招聘したメキシコの研究者から、出席を証明する文書作成の依頼がしばしば舞い込む。内輪の会議にもかかわらず証明書を求められる場合もあり、そんな時にはメキシコの研究者の苦労に同情の念を禁じ得な

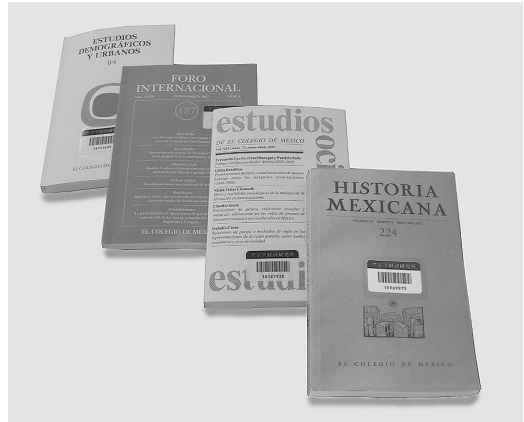
い。

ところで、2005年においてメキシコ全国の、SNI終身を除くSNI認定研究者の数は1万2096人に上った。このうち人文科学・社会科学分野の認定研究者数は3543人である。コレヒオの常勤の教授169人のうちSNI認定研究者は143人に上り、このうち5人がSNI終身であった。つまりSNI認定研究者が85パーセントもの比率を占める。この高い比率に加えて注目されるのは、その構成である。人文科学・社会科学分野でのSNI終身を除くSNI認定研究者3543人の等級別構成が、SNI候補11パーセント、SNIレベル1が55パーセント、SNIレベル2が24パーセント、SNIレベル3が9パーセントと等級が高くなるに従い格段に小さくなるのに対し、コレヒオの場合は、同じ順序で2パーセント、25パーセント、39パーセント、37パーセントといったぐあいに高い等級の比率が高くなっている。コレヒオにはメキシコの学界の中核を担う優れた人材が集まっていることの証左といえよう。

Ⅲ 研究教育活動

常勤の教授を中心に、2005年においては492件の研究プロジェクトが実施され、うち69件がこの年に終了した。研究成果はコレヒオの出版物、あるいは外部の出版物に発表される。コレヒオの出版部門からは各センターが編集する雑誌（年2回から4回発行）と単行本が出版されている。2005年の雑誌の発行総数は33冊、また単行本の発行総数は82冊に上った。出版物の92パーセントは査読付きであった。

コレヒオの教育活動については、しばしばコレヒオが「メキシコ大学院大学」と日本語訳さ



コレヒオの研究センターが編集する雑誌—左から Estudios Demográficos y Urbanos (CEDUA), Foro Internacional (CEI), Estudios Sociológicos (CES), Historia Mexicana (CHH) — (撮影 岩佐佳英)

れることからわかるように、大学院課程が中心である。ただし学士課程も存在する。CEIが担当するのは国際関係学と政治・行政学の学士課程である。修士課程はCEHが担当する歴史学、CESのジェンダー研究、CEEの経済学、CEAAのアジア・アフリカ研究、CEDUAの都市問題研究と人口学、そして図書館が担当する図書館学のコースがある。博士課程のコースにはCEHの歴史学、CELLの言語学とスペイン文学、CEAAのアジア・アフリカ研究、CEEの経済学、CEDUAの人口学と都市・環境研究、そしてCESの社会学がある。なおCEAAのアジア・アフリカ研究には日本コースが設けられている。日本からの客員教授の招聘に国際交流基金が財政支援を行っており、過去に大江健三郎や加藤周一などの日本を代表する文化人、知識人が招かれ教鞭を執っている。

2005年のコレヒオ全体の入学登録者数は学士課程71人、修士課程138人、博士課程122人であった。多くの学生は奨学金を支給され、そのかわりに全精力を勉強に注ぎ込むことを要求され

る。その厳しいコースワークには定評があり、中途退学者の数も多い。ちなみに2005年までに2661人がコースを修了し、そのうち学位取得者は57パーセントの1520人であった。これらの数字には中途退学者は含まれていない。コースを修了した2661人の主な進路は、研究教育機関が44パーセント、政府機関が20パーセント、民間企業が6パーセント、国際機関が2パーセントであった。つまりメキシコの高等教育におけるコレヒオの主たる役割は、研究者、大学・大学の教官、高級官吏の養成であるといえる。

IV 近年の課題

先にコレヒオの教授陣はSNIレベル2、SNIレベル3の比率が高いと述べた。この事実の持つ負の側面は、人材が高齢化しているという点である。教授陣の高齢化は現在コレヒオが直面する最大の課題であるといえる。

教授陣の高齢化を引き起こしている主な要因は、コレヒオに定年制がないことである。そのために70歳を優に超えた教授も現役名簿に名を連ねている。高齢の教授が自らの意思で現役を退くことをしない主な理由は、年金制度の不備にあるといわれている。引退すれば年金生活に入らざるを得ないが、その年金が生活を維持するのに不十分なことが引退を思いとどまらせる大きな要因となっている。高齢化の最大の弊害は、人件費に限りがあるために若手の研究者を採用することができず、それによって組織の活力が失われていくことである。そのことは昨今の研究教育機関同士の厳しい競争を考えるならば、憂慮すべき問題であるといえる。

この問題に対し、2005年になって具体的な対

策が講じられるようになった。その対策とは、70歳定年と補完的年金支給を組み合わせた補完的年金プランの導入である。補完的年金プランとは、70歳以上の高齢者に引退を呼びかけ、それに応じた者には現行の制度で支払われる年金に加えて、補完的年金を支払うというものである。監督省庁である公教育省と大蔵省と交渉の結果、コレヒオはこの目的での補助金の追加的支給を勝ち取った。70歳以上の教授に引退を呼びかけたところ、9名の教授が呼びかけに応じ、引退と引き替えに2006年度から補完的年金の支払いが始まっている。高齢者の引退のテンポに合わせて、今後、若く優秀な研究者の採用を進めるとの方針が示されている。

高齢化問題に並びコレヒオの直面するもうひとつの課題に、研究教育人材のさらなる質の向上がある。メキシコの高等教育の評価機関に高等教育評価全国センター（Centro Nacional para la Evaluación de la Educación Superior: CENEVAL）がある。この機関が発表する報告書で、コレヒオは大学院教育で他の高等教育機関から群を抜いた高い評価を受け、さらに研究能力においても最高水準にあると評価されている。予算獲得の際の重要な説得材料となるために、このような評価にメキシコの高等研究教育機関はおしなべて敏感となっている。この点については既に高い評価を得ているコレヒオも例外ではない。そのような高い評価を今後も維持していくために、人材のさらなる質の向上が方針として掲げられている。そのために現在採られている方策としては、大きく分けて3つの種類のものがある。第1に、前述のように若く優秀な人材の採用である。採用に際しては、博士号の取得、SNI認定研究者であることが必須の条件となってい

る。第2に現員スタッフの能力の向上である。SNI研究者の認定を受けていない者、博士号を取得していない者に対し、それらの取得を奨励する制度的措置が採られている。第3にセンターや個人の業績に関する情報の開示である。毎年出されるコレヒオの活動報告書には、センターと個人のその年の業績が事細かに記載される。報告書にはSNI認定研究者の名前も等級付きで公表される。特筆すべきは、報告書がインターネットのコレヒオのホームページ (<http://www.colmex.mx>) に掲載され、誰でもアクセスが可能であることである。情報開示は比較の目にさらされるセンターや個人にとって、業績の向上、あるいはSNI認定の取得やレベルの向上の、励みとも圧力ともなるといえる。

業績評価主義は世界の潮流といえる。メキシコはその洗礼を世界でも比較的早い時期に受けた。日本も現在その流れのなかに飲み込まれようとしている。今日のコレヒオの姿は、日本の大学・研究機関の近い将来の姿なのであろうか。

大いに気になるところである。

文献リスト

<日本語文献>

星野妙子 1993. 「エル・コレヒオ・デ・メヒコ」『アジア研ニュース』141 22-23.

<スペイン語文献>

- El Colegio de México 2002. *Estatuto Orgánico*. México : El Colegio de México.
- 2006a. *Informe anual 2005, actividades Realizadas*. México : El Colegio de México.
- 2006b. *Informe anual 2005, anexos*. México : El Colegio de México.
- Lida, Clara E. and José A. Matesanz 1990. *El Colegio de México : una hazaña cultural 1940-1962*. México : El Colegio de México.
- Zoraida Vázquez, Josefina 1990. *El Colegio de México, año de expansión e institucionalización*. México : El Colegio de México.

(アジア経済研究所地域研究センター)